

- 1 日時 令和3年10月15日(金)
- 2 学年・学級 第2学年2組(男子 18名 女子 19名) 計 37名
- 3 主題名 みんなが気持ち良く過ごすために(C 遵法精神, 公德心)
- 4 ねらい 電車の座席を鞆で確保したことに対する主人公の心情について, 場面ごとに比較しながら考えることを通して, 他者への配慮や思いやりを大切に, 公德心をもって行動しようとする道徳的判断力を育てる。
- 5 教材名 「宝塚方面行き一西宮北口駅一」(出典 東京書籍「新訂新しい道徳2」)
- 6 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は, 内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の(10)「遵法精神, 公德心」に基づくものとする。公德心とは, 社会生活をする上での道徳を守り, 誰もが住みよい社会を実現しようとする心のことを言う。誰もが住みよい社会を実現するためには, 社会の一員であるという自覚や, 他人への配慮や思いやりを大切にすることをもち, 互いに権利を尊重し, 義務を果たすことが必要である。指導に当たっては, 教材の主人公の行動を通して, 自分自身が公共の場で適切な言動をとっているかどうかを振り返り, 社会の一員としてどうあればよいかについて考えさせることが大切である。また, 中学2年生の2学期は, 3年生にかわって, 部活動や学校全体の中心となって活動し始める時期である。自身が所属する集団や学校全体のことを考え, よりよい集団づくりのために大切な考え方も捉えられるようにしていきたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は, 事前にアンケート調査を行ったところ, 「学校生活において, 他者に迷惑をかけるように気をつけている。」という項目にあてはまる, ややあてはまると回答した生徒は91%であった。しかし, 「ろうかや教室で, 人が集まっていて通りづらいのが迷惑だなと感じたことがある」という項目では69%, 「授業で, 私語の声が大きく迷惑だなと感じたことがある」の項目では74%の生徒が, あてはまる, ややあてはまると回答しており, 「自分では迷惑をかけていないつもり」だが, 実際には自己都合で行動し, 迷惑になっていることに気付いていない生徒が多いことがうかがえる。また, 学校生活においても, 時間や規則に関しては守れている生徒も多いが, 授業中の私語や休憩時間の過ごし方などにおいては, 自身の楽しさやその場の雰囲気流されて, 他者への配慮に欠けた行動をとる生徒も見られる。

(3) 教材の特質と活用方法

本教材は, 電車の座席を鞆で確保していた主人公が, おじいさんにいきなり大きな声で怒鳴られたり, 周囲の人から白い目で見られたりするという経験を通して, 公共の場における自身の行動について考えるというものである。生徒もこれに似た体験や場面に遭遇していることが想定されるため, 自分の言動を振り返り, 自分のこととして考えやすい教材である。

指導にあたっては, 導入で生徒のアンケート結果を提示することで, 本学習内容に対する問題意識をもたせ, 自分ごととして考えさせるようにする。展開では, 鞆を座席に置いたときと, 逃げるように電車を降りたときのそれぞれの主人公の考えを比較しながら考えさせることで, 主人公の鞆を置いて座席を確保する行為に対する見方の変容を理解させたい。その際, 深い学びにつなげるために, 生徒の日常や経験からのズレに即した批判的思考を促す問いなどを投げかける。終末では, よい行為でないことは分かっているにも関わらず, 自己都合で行動してしまうという人間の特性に気付かせ, 社会全体の利益となる行動を取るための道徳的判断力を育てたい。

7 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問 △補助発問)	指導上の留意点(・) 評価の観点(☆)
導入	1. 質問紙調査の結果から、自己の問題について考える。	質問紙調査の結果を電子黒板で提示する。 ・学校生活において、他者に迷惑をかけないように気をつけている。 91% ・ろうかや教室で、人が集まっていて通りづらいのが迷惑だなと感じたことがある。69% ・授業で、私語の声が大きく迷惑だなと感じたことがある。 74% ○このアンケート結果が示していることは、どのようなことだろう。 ・迷惑をかけているのに気付いていない人が多い。 ・迷惑をかけたことは覚えていないが、迷惑だと感じたことは覚えている。	・質問調査の結果を提示し、迷惑行為に対する自己認識と他者評価との間のズレを把握させ、問題意識を持たせる。
展開	2. 教材を読む。 (1) 鞆を置いたときのミサを想像する。 (2) 電車を降りたときのミサを想像する。	みんなが気持ちよく過ごすために大切な考え方ってなんだろう。 ・周りの人のことを考える。 ・周りをよく見て、行動する。 ○鞆を座席に置いたときのミサは、どのようなことを考えただろう。 ・マユミが疲れているだろうから、席をとっておこう。 ・一席分だったら、大丈夫だろう。 ・電車に乗っている人たちも許してくれるだろう。 ○このとき、鞆を置いてよいという気持ちと置いてはいけないという気持ちの割合はどのくらいだろう。心情円盤を使って表してみよう。 ・鞆を置いてよいという気持ち強い。 ・置いてはいけないという気持ちも少しはある。 △鞆を置いてよいという気持ち強いから置いたのではないだろうか。 ○逃げるように電車を降りたミサは、どのようなことを考えただろう。 ・みんなに注目されて、恥ずかしい。 ・鞆を置いてしまってはいけないかった。 ・今まで自分たちが名案だと考えていたことは、乗客にとっては迷惑なことだった。	・授業前と授業後の変容が実感できるようにさせる。 ・ミサの行動には、マユミに対する思いやりの心が込められていることをおさえる。 ・ミサの鞆を置いてよいのか、置いてはいけないのかという葛藤があまりないことをおさえる。 ・置いてはいけないという気持ち強い生徒が多い場合に、問う。 ・複雑な感情が存在しながらも、自己を内省していることをおさえる。

<p>(3) ミサの心情について 場面ごとに比較しながら考える。 【発表の対話】 (グループ交流)</p>	<p>○このとき、鞆を置いてよいという気持ちと置いてはいけないという気持ちの割合はどのくらいだろう。心情円盤を使って表してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 鞆を置いてはいけないという気持ちが強い。 <p>◎何がミサの心を変えたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • おじいさんに厳しく怒られたこと。 • 乗客の冷たい視線から、悪いことをしてしまったと感じた。 • 乗客に迷惑をかけたという思い。 • 周囲への配慮が足りていなかった自分の情けなさ。 <p>△そうでないことは二人とも分かっていたと書かれてあったが、何を分かっていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • おじいさんも周りの人たちも席に座らないこと。 • おじいさんは、自分が座りたくてミサたちに難癖をつけたわけではないこと。 • おじいさんは正しいことを言っていただけで、悪いのは自分たちだということ。 <p>△どんなことでも怒られたら、自分が悪いと反省できるものだろうか。(批判的思考)</p> <ul style="list-style-type: none"> • いいえ。悪いと思っていなかったら、納得いかない。 <p>△どうして、自分が悪いという気持ちがミサに芽生えたのだろうか。(範例的思考)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ミサの心の中に、もともと悪いという気持ちはあったのではないか。 <p>△そもそも、ミサは、鞆を座席に置いて確保するのはよくないということをしらなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 知っていたと思う。 <p>○鞆を置かない方がよいことは知っていながら、置いたのはどうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これくらいならいいかという気持ちがあった。 • 友だちのためだから、悪いことだという認識 	<ul style="list-style-type: none"> • ミサの、鞆を置いてよかったのか、置いてはいけないのか複雑な感情が揺れ動き葛藤していることをおさえる。 • ミサの心が、自身の中でどのように変化したのかについて考えさせる。 • 置かない方がよいと知っていても、置いてしまうという人間理解を促す。
---	---	---

